

# シンポジウム「富山医科薬科大学における 臓器移植の現況と将来展望」

## 司会のことば

片山 喬\*, 飯田 博行\*\*

富山医科薬科大学泌尿器科学教室\*, 内科学第2教室\*\*

今回標題の医学会シンポジウムが開催されるにあたり、医学会集会幹事山本教授の御指名により、われわれが司会をつとめることになった。本シンポジウムは2部に分けられ、第1部は「富山医科薬科大学における腎移植」として昭和58年以来本学腎移植チームが行ってきた生体腎および死体腎移植にたずさわっている各部門の方々から、その成績、予後、問題点などをうかがい、今後の腎移植の発展に資することを目的とした。従って、泌尿器科、第2内科、小児科、手術部の医師サイドのみならず、輸血部・透析部・看護部からも御発表頂き、有意義な討論が出来たことを深く感謝している。また腎移植、とくに死体腎移植については腎提供者の確保という社会的な問題もあり、これは日本人の死生観という命題とも関連しているので、僧侶でもある篁俊男氏（篁整形外科病院長）にとくにお願いして臓器移植と宗教の死生観についてお話し頂き大きな感銘をうけた。

第2部の「富山医科薬科大学における臓器移植の将来を考える」では本学の脳死判定基準案について脳神経外科からの報告があり、さらに最近ヨーロッパから帰られた第1外科村上氏よりフランス等における心臓移植について経験されたところをお話し頂いた。現在では腎移植、角膜移植のみが行われている本学でも、脳死の問題が解決し、臓器提供者があらわれれば、心臓や肝臓などの移植に発展していくことが期待される。

本シンポジウムは多くの興味ある話題が提供され、3時間の予定が延長してしましたが決して長くは感じられず、討論時間をもっととりたい状態であった。臓器移植という現代医療の最先端領域についてこうしたシンポジウムが本学で持たれたことは大変喜ばしいが、更に移植に関する基礎研究が本学でもっと行われるようになること、および脳死の問題について国民的理解が得られ臓器提供者が多くなることを希望するものである。